

学校経営のポイント

“体力と気力”を基礎に“学習力の強化”を

若井 彌一

卒業式が終わり、学校（公立学校や国立大学附属学校）では、人事異動の時期を迎えている。今年度で定年退職される方々、また、自己都合により退職される方々、職歴の長短はさまざまであろうが、教育へのご尽力、どうもご苦労さまでした。

“春はセンバツから”に期待する

さて、今年も、高校野球春の選抜選手権大会を迎え、3月21日から試合が開始される。夏の全国選手権大会と比べるといくぶん盛上がりに欠けるのは、出場校の数が限られていることからやむを得ないが、内容の充実した好試合が展開されることによって、野球への国民的関心（むろん、児童・生徒等の関心を含む）が高まってくれることを願うものである。

最終の結果は予想がつかないとは言うものの、日程的に、高校選抜選手権大会に先行する形で行われている第2回ワールド・ベースボール・クラシック（WBC）では、日本チームが健闘して優勝の可能性も出てきており、経済の低迷や政治の混乱状況のなかであって、国民に元気を与える役割を果たしている。

技術的に見るならば、高校の選抜選手権大会に出場している選手と WBCに出場している選手とでは、大きな開きがあるけれども、ひたむきに戦う姿は共通しており、また、ファインプレーと称される美技も数多く、観戦している人々に感動を与えるだけでなく、ふだんの練習の積み重ねの大切さをあらためて気づかせてくれる。

英語では、“Practice Makes Perfect.” という表現がよく知られているが、試合が競り合いになったとき、この格言の重みがわかる。「習うより慣れよ」という表現は、どうもピッタリしないので、“練習

（こそ）が完全を可能にする”くらいに意識してみると、文意を感じとることができる。

体力・気力が学習力を支える

過去に実施されてきた「教育課程の実施状況調査」の一環として行われてきた児童・生徒の意識調査で、わが国の児童・生徒の多くが積極的な学習意欲をもてないということが判明している。中学生と高校生の場合は、深刻である。

学習意欲は、生活意欲の一部を構成しており、その生活意欲は一人ひとりの健康状態の程度に大きく左右されることは自明と言ってよい。

こう見てくると、各学校では、基本的な取組みとして、

(ア) まず、児童・生徒の体力づくりを大切にするとともに、

(イ) 生活意欲をもてるように社会的存在としての自己に気づかせ、そして、

(ウ) 自ら進んで学習する態度・習慣の形成・確立を促す 充実した教育活動の企画・実施に努めたい。

自発的な学習意欲をもてないままに、学力向上を促そうとする授業が繰り返されれば、結果的に学習嫌い・学校ぎらいを多く生み出してしまふことになりかねない。

短兵急に結果を焦って、教え込みと記憶・理解の程度（成果）を試そうとする授業に傾くのではなく、児童・生徒が学習目標を自覚し、調べ、考え、意見を出し合い、実践するような主体的かつ協働的な学習の力をつけることができるように、年度の始まりの時期に頭を捻ってみたい。

（わかい・やいち = 上越教育大学大学院教授・附属図書館長）

本紙は、<http://www.kyouiku-kaihatu.co.jp> でも掲載

●最新刊好評発売中！

高階玲治【編】 B5判 180頁・定価 2,520円

教育開発研究所

『移行措置を乗り越える学校経営全課題』

■好評発売中！

免許状更新講習、「指導改善研修」、新教育課程への移行等の対応は万全か！

『教員の養成・免許・採用・研修』若井彌一編著 A5判 370頁 定価 3,570円